

「これからのまちづくり協議会」検討会

第1回 意見要約

①活動実施体制 について

1) まちづくり協議会の設立、運営

核となる組織やリーダーの貢献などによって地区としてのまとまりがつけられている。役員の既存団体役員との兼任、非兼務それぞれにメリットを感じている。協議会設立経緯は地区によって異なるが、組織づくりを機に活動の継続性にむけた役員選出の改善をした地区もあった。また、部会活動によるネットワーク構築や新しい団体の加入による広がりなども生まれ、団体間の協力による行事運営が進むなどの変化があった。

2) まちづくり行動計画づくり

計画の作り方は地区によって異なるが、計画づくりの効果として、目標の確認や、見直しの機会、団体同士の交流、情報共有などが挙げられた。また、部会による活動の変化や新たな活動が生まれた地区もある。計画の実践による地区活動の充実を期待する意見もあった。

②ひとづくり について

1) 地区活動の担い手づくり

役員の選出は、各団体に委ねる、一本釣りなどで人材を確保している地区が多い一方で、PTA 役員の参加やOB の活用などの方策があった。また、新たなポストや事務局体制など、円滑な運営のための工夫をしている地区、役員のスキルアップを行っている地区もある。活動に関わる人材の確保策としては、会議の場や活動の場で人材を発掘したり、企業への働きかけや、子どもの参画、広報で活動や関わる人を知らせるなどが挙げられた。

2) 地区担当班の関わり方

行事への参加など積極的に関わっている地区があるが、関わりが薄い地区、まちづくりセンターとの関わりの方が強い地区もある。また、地区担当班としてではなく市民としての参加やOB が地区活動に参加している地区もある。地区活動への職員としての知識の提供などに期待する意見もあった。

③活動の場・連携 について

1) まちづくり協議会内での団体同士の連携

以前から連携できているが、部会活動や会議によって連携が深まっている。活動への協力体制が進み、活動内容が充実したり、地区の一体感などが生まれたりしている。団体や人への相互理解などが活動の継続につながるなどの期待もある。

2) まちづくり協議会と市民活動団体等とのつながり、他地区との連携

地区間の連携は、祭りでの連携がある地区やブロック研修会を行った地区がある。他団体との連携は、環境、防災、健康、福祉などの活動、バザーなどの行事を通じた連携や、学校、商店街、企業、施設などとの連携が生まれ、新たな関わり方の成果を上げる地区もある一方、連携していない地区もある。

《項目別の主な意見》

①活動実施体制 1) まちづくり協議会の設立、運営

地区としてのまとまりがある

- ・まちづくり推進会議時代からよりよくしていこうという思いでしっかりやってきた 広見
- ・以前から大切なことは区長会を中心に話し合ってきた 富士南

核となる組織がある

- ・まちづくり推進会が母体となり、引き継いで8部会に対応(41町内会) 吉原
- ・連合町内会が中心となってまとめている 原田

リーダーの貢献

- ・トップ同士、仲も良く、飲み会を重ねるなかでアイデアが生まれ、取り組んでいこうという機運が生まれる 松野
- ・よいリーダーがいる→流れがわかっている。組織がよい 浮島
- ・連合会長が協議会会長で話し合いがスムーズに進んでいる 大淵

リーダーの役割

- ・連合会長と兼任が多い(その方が良いのでは?どちらもメリットがある) 浮島
- ・まちづくり協議会長と区長会長の非兼務 岩松北、松野、富士川
- ・会長はまとめ役、執行委員の意見を聞きながら役員会で全体の動き(方向性)を決め、全体会議にはかかっていく 天間

協議会設立経緯の工夫

- ・まちづくり協議会設立委員会を設立し、機能した。設立委員会後スムーズに設立した(月1回以上集まった。年間15回はやった。各団体と丁寧なすりあわせした) 広見
- ・生涯学習推進会を解散 伝法
- ・ゆるやかな変更を大事にして協議会をつくった(丁寧な打ち合わせを重ねて総会で承認を得た、18回の正副会長会議を開催) 富士川
- ・1年かけて各団体が話し合い、お互い協力していこうという横串をさし、情報共有できるようになった(27団体) 天間

役員選出と継続性の工夫

- ・役員を半分ずつ交替する(継続性につながる) 浮島
- ・OBを生かす(役を降りた人が、その後も関わる) 岩松

改善したこと

- ・世帯数が少ないため、役割を減らす=負担を減らす 浮島
- ・今後、協議会から仕事を各団体に割り振るようになっていっている 岩松

部会

- ・6つの部会(25団体が全てどこかに入る) 富士見台
- ・36団体が関連のあるところへ適正配置 富士駅南

部会活動による効果

- ・部会制にしたことでネットワークができ、協力体制ができた 鷹岡
- ・話し合い、行事に取り組む中で、実は特技があったり、強みがわかり、それに応じた役をお願いできた(生涯学習) 松野
- ・小中学校とのつながりができた(教頭、校長が会議に出てくる)学校からの要望も地区で受ける窓口になった(防災訓練を地区で9/1に統一し、学校も学校行事として取り組んだ) 鷹岡
- ・商店街、地域振興委員会を加えた。新しい組織、団体が加わることで、新しい情報が伝わりやすくなる 富士駅北

行事運営の変化

- ・協議会の組織は事業で住み分け(企画、立案は個々の団体が進め、運営はいろいろな団体で取り組む) 鷹岡
- ・イベントはまちづくり協議会に統一 浮島

- ・ どんど焼きにしても、今までは子ども会がやっていたが、昨年から地区全体でまとまって行うようになった岩松

広がり、情報共有

- ・ 毎月 1 回 22 団体長が集まる場（連絡会）をつくり、活動等を発表、PR して共有している 天間
- ・ 広がっていく方法しくみづくり 富士駅北

資金、会計

- ・ 区長会から財政支援 駅北
- ・ 会計の役割を充実したい 吉原

①活動実施体制 2) まちづくり行動計画づくり

計画の作り方

- ・ 市の部長クラスの OB がリードして、区長が各部会の副部長になってまとめた。部長にならずサポートに徹してもらう 富士南
- ・ 全団体にヒヤリングし、活動についての役割分担をしながら活動計画を自分たちで作りに上げた 天間
- ・ アンケートの実施、各地区の事業の把握 元吉原
- ・ 事業で住み分けしているのので、団体ごとに目標を定め、体系化したら行動計画になった 鷹岡
- ・ 専門チームを作って作成した 伝法

計画内容

- ・ 地区のことが網羅されている 岩松北
- ・ 実行性のある計画になっている。 松野

計画内容の成果

- ・ 方針、道筋ができた 原田
- ・ 活動の方向性をきちんと定めたい。地区の資源をしっかり活用していきたい 広見

計画づくりによる効果

目標確認

- ・ 目標を持って動くスローガン 吉永
- ・ 目的を再確認し、参加できない人をどうするか？という気持ちになった 浮島

見直しの機会

- ・ 今までやってきたことを振り返りよいきっかけになった 浮島
- ・ 行動計画を作ってみて、体育祭や文化祭など大きなイベントは実施するのが当たり前だと思っていたが、いろいろな人の意見を聞くと、否定的な意見が少なくないことがわかった 富士南

活動の変化があった

- ・ 部会の動きが生まれた 富士川
- ・ (計画を) 知らないという団体がいないため、活動への意欲もわいていく 天間

交流できた

- ・ 行動計画づくりによって知らない人同士が交流 富士川
- ・ 団体同士で話し合う機会になった 浮島

情報共有になった

- ・ 一部の人はあるが、情報の共有になった 神戸

新たな活動

- ・ 通学合宿は協議会の部会でなければできなかった（抽選になるほどの人気事業） 鷹岡

期待

- ・ 活動することでさらに内容が広がる 吉原
- ・ 文化祭に地元の高校が参加してくれる 青葉台

今後の課題

- ・まちづくり協議会としての資金はないので、生涯学習と共同しながら区長会のまちづくり協議会組織をはかっていくことで行事進行をはかる 岩松
- ・目標達成のために人を増やす（必要がある） 田子浦

周知している

- ・全戸配布 元吉原
- ・地区の新聞「おもいやり」で会長の行動計画づくりへの思いを知らせている 吉永北

②ひとづくり 1) 地区活動の担い手づくり

協力体制がある

- ・顔の見える関係がうまくいっている 富士見台

生涯学習を中心とした体制

- ・生涯学習のメンバーは他の部会にも参加。横断的に関わっている。吉原
- ・生涯学習が人材育成の場 岩松北
- ・生涯学習推進会は人の入れ替えがない 田子浦

役員選出方法

- ・2年交替の順番 青葉台
- ・組長が役を何役も担っている 青葉台
- ・町内会長の任期が1年だったが、訴えて2年任期も増えてきた（町内会ごとに反応が違うが） 広見
- ・各団体が人材確保 岩松北
- ・一本釣りて人を確保 富士見台
- ・人材ローテーションを作った「代行」という役をつくった。次期会長のポストとして意識を持つ、周りその目で見ると 広見
- ・1年交代の会長を補佐する専任がほしい 須津
- ・総入れ替えで新しい人だけにならないよう町内会長任期2年（1年ダブりをねらう） 吉永北
- ・事務局体制をつくった（推進会のときは三役で決めていた） 鷹岡

PTA 役員の参加

- ・PTA 会長を協議会役員に入れることにより、若返りと次期 PTA 会長へも引き継ぎできる 伝法
- ・区内各団体（PTA、子供会、青年団）の取り組みの中で、人材を発見し担い手づくり 岩松

OB を活用

- ・経験者（OB）を事務局として参加（最低2年） 鷹岡
- ・今後は役を降りた OB を生かすような取り組みが必要（例えば、区長会の役を降りたら協議会で活躍してもらおう。現役時代に培った人脈、経験を生かす） 岩松
- ・市の OB の活用も必要 広見

役員経験の効果

- ・人口が少ないとがメリットになっている（役が短いサイクルで回る～経験すると、参加する気がおきる） 浮島

役員スキルアップ

- ・役員限定パソコン講座 鷹岡
- ・町内会長が、テーマを決めた泊まり込み研修をしている

会議の場で

- ・会議の場で発言しやすくする 富士駅北

活動の場で

- ・交流の場をつくって人材発掘（人材育成よりも） 広見

- ・バーベキューで新規の人を集める（カラオケ大会など） 富士駅南
- ・一つの事業をやる中で人が育っていく。活動に参加することがきっかけで、活動に継続して参加できる人ができる 富士駅北
- ・よそ者が活躍しやすい先輩の受け止めがあった 吉原
- ・参加してもらえれば、活動の意義を知ってもらおう 広見
- ・取り組みの仕掛け人が団体間をつないでいく 松野

企業に働きかけ

- ・消防団が足りない→地元企業への協力をまちづくり協議会で働きかけた 天間

子どもの参画

- ・中学生のボランティアでの参加 富士駅北
- ・ふれあい祭りの中で、小学生に役割を与え、世代間交流とともに、将来の担い手として育成している 松野
- ・作文＝大人が気づかない視点に気づく（利用の少ない→子どもが集まらない公園の遊具の老朽化、草がのびた）、子供世代のまちづくりへの提言、富士川夏祭りは家族の絆を作る、故郷を大事にする場、まちづくりのアイデアはたくさん集まった 富士川
- ・地区全体で町内ごとに小・中学生と語る会を開催（毎年）。地区の行事等について子どもの意見を聞こうとしている 吉永北

広報で

- ・新聞で褒めた 吉原
- ・広報の取材で他部会の活動を把握できた 伝法

②ひとづくり 2)地区担当班の関わり方

積極的に参加している

- ・市の職員が積極的に参加してくれている 富士南
- ・各行事ごとに電話し、応援を貰っている 松野
- ・1回やれば積極的にやってくれる 岩松北
- ・困った時にアドバイスをもらっている 駅北

行事に参加

- ・地区行事には積極的に参加、協力してもらっている 吉永北
- ・まつり、遠足（700名の参加者）を担当として割り振っている 須津

新たな関与

- ・防災への支援 富士見台

市民として参加

- ・地区担当班というより一般の方として祭りには参加 伝法

OBの関与

- ・市のOBが参加している 浮島

関わりが薄い

- ・あまり（直接の）関わりがない 伝法
- ・特にない（行政懇談会の司会、祭りのみ）神戸

自立？

- ・自立しようとさせることが見える 吉原

まちづくりセンターとの関わりが強い

- ・まちづくりセンター職員がリード 吉原

今後への期待

- ・地区担当班には、まちづくり協議会の周知徹底に協力してほしい 神戸
- ・地区班の認識を高めたい＝出番をつくる 天間
- ・地区のこと、行政の役割を分かっている人が多いので参加してくれると助かる（受付など） 須津

増やしてほしい

- ・少ないので（増えるといい） 浮島

③活動の場・連携 1) まちづくり協議会内での団体同士の連携

以前から連携できている

- ・各団体の横のつながりはもともとよかった 吉永北
- ・みんな協力的 原田

会議の場がある

- ・月1回の会議の開催（連絡、決定の場） 吉永
- ・代表者会議は組織として機能している 富士北

部会の活性化

- ・委員会組織の確立 吉永

変化がみられる

- ・横連携が出来た（バランスよく指示） 吉原

活動運営体制

- ・各団体ではできなかったことが、団体間で共有するなかで、取り組みが進むようになってきている 天間
- ・今まで1つの団体が請け負っており、限られた人数で行っていたが、協議会になって参加者が増えた 富士南
- ・地区全ての団体が専門部に加入し、イベントに協力。要請が全ての部会に伝わり、お互いの得意分野で協力してもらえる 松野
- ・体育祭を復活した（8年ぶり、町内対抗をやめた。色別のみ（鉢巻、ユニフォーム）競技時間を短くした） 伝法
- ・夏祭り前のクリーン作戦＝各種団体が参加して実施＝参画団体の連携の機会 富士川
- ・防災と環境（その他専門部）が協力し、危険箇所の確認ができた（例：通学路は子どもに聞かないとわからない）→行政、自衛隊と連携した防災危険箇所チェック 松野
- ・市町駅伝の選手の激励会も企画 広見
- ・子ども会から野球の大会に出たという報告→みんなで応援に行こうという雰囲気 天間

中学生の参加

- ・中学生がボランティアで参加してくれる 鷹岡

効果

- ・お互いの団体の活動を理解できた 広見
- ・町内会長が名前だけでなく、実働部隊として参加するようになった 須津
- ・いろいろな団体がつながることでやりたい人を引っ張り上げることができた 富士駅北
- ・アイデアを出す人が増えてきた 広見

つながるメリット

- ・役をこなすことで、相手の立場がわかる 浮島
- ・コミュニティとアソシエーション それぞれの団体がつながることでハーモニーができる 富士駅北
- ・各団体の長の名前、顔がわかる 吉永

期待する効果

- ・活動能力が落ちている。連携することにより、活動が続けられる、関わる人、世代の幅が広がる 富士駅北

③活動の場・連携 2) まちづくり協議会と市民活動団体等とのつながり、他地区との連携

できている

- ・協議会の連合会で情報交換できている 富士北
- ・協議会と商店街をつなぐキーパーソン（兼務している）がいる 吉原

地区間の連携

ブロック研修会

- ・北西部ブロック研修会（交流と意見交換）各団体としては今までやってきたが、協議会としては初めて 天間

祭り

- ・富士川夏まつりは対岸の他地区（富士南や駅何）も楽しみにしている→今後の協力もできれば。今年は協力依頼した。警察の協力 富士川
- ・岩松北、岩松合同のかりがね祭り 岩松北

他団体との連携

環境

- ・クリーン作戦（トラックを出してくれる）元吉原
- ・子ども会に草取り等の活動に参加する 原田

防災

- ・地区防災組織（自主防災）ができ、防災会議を初めて昨秋に開催。9 町内合同で消防団も協力してくれて放水訓練を始めた 吉永北

健康

- ・神社例祭と健康ウォーキング（1万歩コース、2種類）の日をぶつける 富士川

福祉

- ・福祉団体との連携をしている（輪投げ、出展協力がある）富士見台

バザー

- ・ボーイスカウト、鷹身工芸社がバザーで参加 鷹岡

学校

- ・吉原二中で今泉地区へ 青葉台
- ・南中のあいさつ運動（学校の中をぐるぐる回る授業参観）学校の情報が直に入る 富士南
- ・常葉大学との連携（イベント参加）伝法

商店街

- ・未来塾と商店街の連携、学生をまじえてやれた 富士駅北

企業

- ・コカコーラとの備蓄水 天間
- ・地元企業（王子エフテックス）と年1回情報交換会（地区として応援していく）鷹岡
- ・沼川の清掃（県の現物支給）、企業が参加（5企業）元吉原

施設

- ・博物館との連携や他施設との連携の機運が高まっている 広見
- ・他地区（原田）の交わりができる（ホール富士）吉永
- ・地域資源の活用 大淵

成果

- ・市立高校究タイムは他地区の現状を知るよい機会になった 伝法
- ・外から話をしてくる人が出てきた（スポーツ、テレビ寺子屋）浮島

連携していない

- ・まずは自地区をまとめるところから 神戸
- ・区長レベルで顔はわかる 富士駅南